

## 討論メモ

### 「イスラエルの歴史とガザ侵攻」

令和 6年4月22日

森田晃司

1. 4月は、児玉寛嗣さんに、頭書について解説いただきました。

①. 旧約聖書に記載されたエジプト脱出の故事から、イスラエル王国の建設、ローマ帝国の弾圧による崩壊、流浪の始まり、欧州での迫害と追放の繰り返し、シオニズム運動の誕生、英国の三枚舌外交を経ての1947年のイスラエルの再建までの苦難の長い歴史を詳しく解説いただいた。

②. イスラエルとアラブ諸国との戦いと和平への道のり

強引なイスラエル建国後の周辺のアラブ各国との第一次から第四次までの中東戦争などの争い、と同時に近年、活発になっていた和平への動きもご紹介いただいた。

③. ハマスによるイスラエル侵攻後

昨年10月7日の侵攻後の動き、また、米国やイランなど関係国の思惑、さらに日本への影響など今後の見通しも解説いただいた。

(詳細は専用ページに掲載の資料をご参照とう)

2. 次いで、出席者九名による様々な角度からの意見交換を行い、下記のような意見が出されました。

- ・「アラビアのロレンス」の原作と映画を思い出す。

- ・英国の三枚舌外交はひどい。ロレンスの活躍もその一環だったのではないか。

- ・オスマントルコが統治していたアラブは欧州勢に分断され、勝手な線引きをされた。

- ・ユダヤには虐げられてきた長い歴史と怒りがある。自分たちには、報復する当然の権利があると思っているようだ。

- ・1400万人と推定されるユダヤ教徒は、団結し、伝統を守り迫害に耐えてきた凄い民族だ。

- ・ユダヤはセム族、アラブはハム族に属し、もともと近い民族同士だ。

- ・十世紀ごろ、欧州にハザール王国というユダヤ教国があり、欧州系ユダヤ人も多いのでややこしい。

- ・イスラエルの建国に功績のあったロスチャイルドは、欧州系のアシュケナジーと言われている。

- ・欧州、とりわけスペインでのユダヤ迫害は激しかった。

- ・イタリア系ユダヤ人と言われるコロンブスは、この迫害から逃れるために旅に

出て、米大陸を発見した。

- ・十字軍のアラブ虐待、特にユダヤ人の船乗りによる略奪もひどかった。
- ・ユダヤの聖典、タルムートには、世界の富は自分のものと書いてある。
- ・ユダヤ人との商取引の経験があるが、極めて緻密で契約をしっかりと守る。
- ・欧州で王侯貴族の金庫番などとして財力を蓄えたが、優秀だったのだろう。
- ・ユダヤ人はヘブライ語を継続して使用しているようだ。
- ・アラブの産油国では国民は働かない。
- ・パレスチナのガザ地区沖合に埋蔵量の大きい油田が発見されたようだ。この利権争いも今度の戦闘に絡んでいると言われている。
- ・イスラエルは淡水化技術もあるし、農業も盛んになっているようだ。
- ・ネタニヤフ首相は、“テロとはこう戦う”など戦闘意欲が盛んだ。
- ・モサドの能力からすれば、ハマスの奇襲に気が付かなかったはずはない。イスラエルは奇襲を口実にハマスを殲滅する計画だ。
- ・エジプトのサダト大統領は和平に向けて尽力したが、暗殺された。
- ・両者の対立は根深い。和平には長い時間がかかるのではないか。
- ・戦争を金もうけの手段として利用する金融資本がいる。戦争を無くすには、庶民の覚醒が必要だ。
- ・宗教の復権の時代が来るかもしれない。

以上